

出産・育児期の女性に向けたキャリア形成支援 ——日本女性学習財団「女性のキャリア支援セミナー2007」の事例——

新井 浩子

要 旨

これまで女性のキャリア形成支援というと、育児終了後の女性が主な対象であったが、近年「出産・育児期の女性」を対象とするキャリア支援が企画されるようになった。財団法人日本女性学習財団は2006年より、港区立子ども家庭支援センターと協働で育児期の女性を対象にしたキャリア支援セミナーを実施している。

本稿では筆者がトータルコーディネーターとして参加した2007年度のセミナーを出産・育児期の女性に向けた支援プログラムの事例として検討した。セミナーは、育児期の女性たちが同じ子育て中の女性たちと学びあう中で自信を持ち、自分自身のライフプランを見直すことを目的とした。そのための方法として、女性が自身の状況を確認し、将来展望を具体化するワークを中心に、育児との両立を可能とする情報提供、ロールモデルの提示を行った。

参加者に対するアンケート調査の結果からは、セミナーに対する満足度は高く、現状分析や自己理解の深化、将来に対する積極的な意欲の喚起に効果があったことが確認された。課題としては、ジェンダーと子育てのテーマ化、参加者同士のネットワーク形成の支援があげられる。

キーワード：出産・育児期の女性、女性のキャリア支援プログラム、育児と就業・社会活動の両立、将来展望の具体化

はじめに

近年、地域でも「出産・育児期の女性」を対象とするキャリア支援の講座が企画されるようになっていく。これまで女性のキャリア形成支援というと、育児終了後の女性が主な対象であったといえよう。この背景には、出産・育児期の女性は子育てに関することを学び、ある程度子育てから手が離れたので自分の人生について考えたい女性がキャリア支援に参加するという傾向があったと思われる。しかし近年では、企業の女性活用やワーク・ライフ・バランスの進展にともない、出産・育児期に人生の選択を意識する女性が増えている。こうした女性の増加が、キャリアセミナーのあり方を変えつつあるといえよう。

「出産・育児期の女性」は、就業を継続するかどうかを筆頭に、他にも例えば、子どもをどのような家庭・保育環境で育てていくのか等々、その後の人生に大きく影響する選択に直面する。しかしこの時期の女性は、自分自身のことを落ち着いて考える機会が持ちにくい。家事育児に多くの時間とエネルギーを割かれてしまっているからであり、また、「子どもを最優先すべき」という世の中のプレッシャーを感じて自分の将来を考えることにためらいを覚える女性が少なくないのである。

自分の人生について意思決定をしたい、にもかかわらず、それが困難な状態にある。それが「出産・育児期の女性」である。ここに、女性のキャリア支援に対する現代的ニーズがあるといえよう。

財団法人日本女性学習財団は2006年より、港区立

子ども家庭支援センターと協働で育児期の女性を対象にした、グループワークや話し合いを重視した参加体験型のキャリア支援セミナーを実施している。筆者は2007年度のセミナーにトータルコーディネーターとして参加した。本稿では、セミナーの実施経緯や内容、参加者による評価を分析し、出産・育児期の女性に向けた支援プログラムのあり方について検討する。

1. 「女性のキャリア支援セミナー2007」の概要

本稿で事例とするセミナーは、2007年10月に日本女性学習財団¹⁾（以下、女性学習財団）と港区立子ども家庭支援センター（以下、子ども家庭支援センター）が協働で実施した全4回の連続講座である。子ども家庭支援センターを会場とし、0歳から保育を行った。筆者は企画段階から参加し、女性が自身の状況を確認し、将来展望を具体化するワークの企画と学習支援者の役割を担った。ここでは、企画から実施に至る経緯、セミナーの内容、方法など概要を述べる。

1.1. セミナーの趣旨と構成

セミナーでは、育児期の女性たちが同じ子育て中の女性たちと学びあう中で自信を持ち、自分自身のライフプランを見直すことを目的とした。対象者はキャリア形成に関心を持つ子育て中の女性とした。

プログラムの企画にあたっては、前年度に実施したセミナーの結果をふまえ、スタッフと話しあいながら決定していった。その過程で以下の3点に留意することとした。

第一は、多様なキャリア形成を支援することである。近年では女性の就業意欲は高く、出産・育児によるブランクを避けた女性も少なくない。その意味では職場復帰や再就業支援のニーズは高い。セミナーの参加者も就業を希望する女性が多くを占める傾向がある。だが丁寧に見ると就業希望の内容には幅があり、就業以外の社会参加を模索する女性も少なくない。そこで就業だけでなく地域活動やNPOなども含む多様な社会参加や能力発揮の選択肢を提示することにより、参加者が自分にあったキャリア展望を見出すことを支援することとした。

第二は、子育て支援の観点を導入することである。一般に女性のキャリア形成は子育てとの両立が課題と

なる。なかでも乳幼児を育てる女性にとって子育てへの影響は大きな不安要因である。就業や社会活動をしたいが、子どもに負担をかけるのではないかと思い実現に向けて動き出さない場合が多くある。セミナーの応募動機でも、仕事と育児の両立に対する不安が共通してあげられた。そこで、一人で子育てを抱え込むのではなく、周囲の支援を得ながら子どもとの関係をつくっていく学習内容を検討することとした。

第三は、子育て中の女性が自ら生活を作っていく自信やきっかけを得ることである。育児と就業や活動の両立を希望する女性が増えているが、実際に実現していくには様々な障害が予想される。応募動機でも今後の生き方についてのヒントなど、ライフプラン・キャリアプラン構築への期待が大きかった²⁾が、その背景には、希望の実現性への不安が存在すると考えた。そこで女性が自らの人生を作っていく具体的な見通しと自信を得られるような支援を工夫することとした。

1.2. プログラムの内容と方法

プログラムの内容は、以下の2点を柱とした。

- ①仕事や社会的活動と育児の両立が可能なことを示す情報を提供する
- ②参加者が自身の現状と希望を他者と共有しながら具体化する

①については、育児期の女性の社会参加推進は以前から取り組みが行われてきたが、一般の人にはその成果があまり知られていない。これまでの筆者の経験でも、両立に憧れるが具体的な情報はほとんど得ていないケースが多い。そこで講演や地域の子育て支援の情報提供、ロールモデルの提示に加え、各回のワークにおいても適宜、情報を提供することとした。

②については、キャリア形成において現状分析と自己理解は欠かせないが、出産・育児期の女性は日常生活の中で自分を見つめなおす機会を持つことが難しい。そこで、プログラムの中でこれまでの自分の経験や関心をふり返り、具体的に現状と希望を確認するワークを設定することとした。具体的な学習方法としては、ワークシートを活用した「書くこと」による自己確認を基本としてすえ、グループワークによる自己表現と相互理解を重視することとした（表1参照）。

2. プログラムの実施過程

実施したセミナーの流れは以下の通りである。参加者数は33名³⁾で、各回の人数は、第1回が28名、第2回が29名、第3回が25名、第4回が26名であった。

以下では内容と方法を示すため、やや詳しく展開を述べたい（配付したワークシートは本文末に資料として掲載した）。

2.1. 第1回 長期的・総合的な視点でライフプランを捉える

就業は本来、どのような生活を送るかという問題の一部である。よってキャリアプランはライフプランの一部であると言えよう。しかし実際には、キャリア形成という近い将来の就業や社会活動の有無のみを考え、どのような人生を作っていくかはあまり意識されない傾向がある。そこでセミナー初回は、長期的なライフプランを持つことの重要性を提起し、その後、これまでの自身の経験や関心をふり返るワークを行った。

○ゲストスピーチ

まず育児期の女性のキャリア形成支援に関わってこ

られた講師を招き、人生を仕事と家庭だけでなく、ボランティアなどの公共的な活動を加えた3領域でとらえることを、女性のライフサイクルを踏まえて解説していただいた。キャリアといった時に就業しか想定しない人が多いが、トータルに人生を考えると3領域はどれも重要な要素である。また3領域のバランスは常に一定ではなく、自身の年齢や家族構成により変化する。例えば、現在では育児が生活の大きな割合を占めているだろうが、子どもの成長に伴い自分の時間が増えてくる。そうした見通しを持てばいたずらに焦りや不安を感じることはなくなる。これから自分のライフプランを立てる際には、数年という短期だけでなく、50歳、60歳の時に3領域のバランスをどう取りたいのかを考えてみてほしいと提起された。

○ワーク「キャリアの木」

次に、これまでの自分をふり返るワーク「キャリアの木」⁴⁾に取り組んだ。労働と生活の両面において、自分が取り組んできたこと、身につけてきたこと、関心を持ってきたことをできるだけ具体的に想起しワークシートに記入する。どの時期に自分が何に取り組んできたか、関心を持っていたか、またどのような技能を習得したかを確認できる。シートによって子どもの時期から今に至る活動や興味の継続や中断状況をふり

表1 プログラムの展開
テーマ「子育て中の“育児”プランニング——豊かなつながりでチャレンジ力をつける」

回数	目的	各回のタイトル	内容
1	長期的・総合的な視野でライフプランを考える	キャリア形成への長期展望をもとう！ ——ワーク・ライフ・バランスに向けて	①オリエンテーション②ゲストスピーチ*③アイスブレイク④ワーク：「キャリアの木」を記入する／グループに分かれて記入した内容を発表／グループ内で意見交換／全体でワークの感想を共有⑤学習支援者からのコメント⑥感想シートの記入
2	自分自身の周囲をふり返り、今後必要な支援や関係性を検討する	キャリアアップは子育てを支える関係づくりから——私・家族・地域	①前回のふりかえり②アイスブレイク③ワーク：「わたしの支援者」を記入する／グループに分かれて記入した内容を発表／グループ内で質問や感想の交換／グループでの話し合いを全体で共有④学習支援者からのコメント⑤ストレッチを中心とした運動により身体と心をほぐし、参加者同士の交流を深める⑥地域の子育て支援情報の提供⑦感想シートの記入
3	キャリアイメージを具体化する	先輩に聴く“私のチャレンジ” ——一歩踏み出すために	①前回のふりかえり②ロールモデルの提示：3人のロールモデルの話を聴く／グループに分かれてロールモデルと交流する／感想や気づきを全体で共有③学習支援者のコメント④感想シートの記入
4	現在持っている将来イメージを自覚化し、将来展望の実現を具体的に考える	ライフデザインの第一歩——私のキャリアプラン実現のために	①これまでのふりかえり②ワーク：「10年後の未来日記」を記入する／未来日記実現の阻害要因と、実現に向けた行動計画を記入する／グループに分かれて記入した内容を発表／グループで話し合いながら阻害要因を分類する／他グループに紹介したい「未来日記」と行動計画を一つ選択／選んだ日記と行動計画を全体にむけて発表③学習支援者のコメント④感想シートの記入

* タイトル：「私」のキャリアを拓くために」講師：たけながかずこ

返るとともに、現在および将来に向け発展させていきたい要素を考えた。記入後は、5～6名ずつのグループに分かれて内容を発表し合った。

○まとめ

まとめでは、キャリア形成という将来をどうつくるかが意識される傾向があるが、これまでの経験もキャリアの一部である。自分が何をしたいのかを明らかにするプロセスとして、過去の経験を丁寧に確認することは重要であることを確認した。

2.2. 第2回 必要な支援を具体化する

セミナー第2回は、女性のキャリア形成に大きな影響をおよぼす支援に焦点をあてた。家事・育児を主に担う生活をしている女性が就業や社会活動をするにあたっては、様々な支援を確保する必要がある。だが誰にどのような支援を得たらよいのか分からなかったり、支援を得ることを迷惑をかけると捉えるため、積極的になれないことが多い。そこで現在自分が得ている支援を確認し、今後必要な支援を具体化することを目標としてワーク「わたしの支援者」に取り組んだ。

○ワーク「わたしの支援者」

まず、現在自分を支援してくれていると思う相手・機関と支援の内容をシートに記入する。その際、どのようなものでも自分自身が支援であると考えるものをあげてよいことを伝えた。シートにはあらかじめ三重円が印刷されており、中心の円には「自分」と記載してある。支援が自分にとって重要な人はシートの中心側に、そうではない人はシートの外側に記入することで、自分を取り巻く関係性もふり返ることができるようにした。

記入後はグループに分かれて内容を発表し合い、今後自分が希望するキャリア形成を行っていくにあたって誰からどのような支援を得たいか、また不足している支援をどのように得ていくことができるかを考えた。その後全体で、グループでの話し合いを共有した。

○まとめ

まとめでは、確認した支援を区分してみることをすすめた。一つの例として情緒的支援、道具的支援の区分を紹介し、記入したそれぞれの支援において自分が最も必要とすることは何かを検討してみる。自分が必要とするのはどのような支援なのか自覚できれば、支援の要請もしやすくなることを指摘した。

また今回は自分に対する支援を検討したが、自分も誰かの支援者となっている。自身の希望の実現を考える際に人に迷惑をかけないことを意識しがちだが、誰かの支援を得、自分も誰かを支援できるほうが実現の可能性は広がる。互いに支えあう関係の構築は重要ではないかと提起した。

2.3. 第3回 キャリアイメージを具体化する

セミナー第3回はロールモデルを提示した。女性のキャリア形成上の課題としてロールモデルの不在があげられている。近年では転職や起業など男性の職業も多様化してきた。そのため自分の展望に合致したロールモデルを模索する男性もいるだろう。しかし結婚や子どもを持つといったライフイベントに関わりなく就業を継続しキャリアを積んでいくという点では男性の働き方は一定しており、特にモデルを必要としない。これに対して女性は、ライフイベントに応じて働き方や暮らし方を選択せねばならず、身近にモデルとなる人物を見出せないことも多い。

前年度のセミナーで、子育てや働き方について体験者の話を聴きたいという要望が複数寄せられたこともあり、企業や地域でキャリアを形成してきた女性達にその過程を聴く機会を組み入れた。

○ロールモデルトーク

ロールモデルの提示に際しては、参加者が身近に感じそれぞれの課題解決のヒントを見出すことを重視した。そのため人選にあたっては、参加者との共通点、幅広いキャリアの在り方を示すことに留意し、3名に依頼した。それぞれの経歴は以下である。

- ①専業主婦として参加した地域活動の経験を生かし、子育て支援のNPOを設立・運営している女性。
- ②2度の育児休業を取得し、就業を継続している女性。
- ③出産後に2006年度のセミナーに参加し、その後地域で起業した女性。

セミナーでの提示方法も工夫した。まず全員で大きな輪になって座り、直面した迷いや葛藤をどのように乗り越えたかに力点を置きながら、現在の働き方や活動の仕方、やりがいについて、それぞれ15分ずつロールモデルに語ってもらった。その後、参加者がロールモデルと直接意見交換しやすいよう、グループに分かれて交流する時間を設定した。具体的には3グループ

ブに分かれ、それぞれに1人のロールモデルが参加する。15分たつとロールモデルは別のグループに移動し、参加者が3人全員と交流できるよう工夫した。

グループでの交流時間には生活や仕事・活動上の工夫など、希望を実現していく具体的なヒントについて活発な質問があった。

○まとめ

ロールモデルの3人に自分の経験を語った感想と参加者へのメッセージをもらった。その後、望ましい生き方が何かはそれぞれが決めることであるが、3人のような年代やライフステージを迎えた時に自分はどのようになっていたいのかを改めて考えてみてほしいと提起した。

2.4. 第4回 将来展望を具体化し、実現に向けた行動計画をたてる

セミナー最終回はこれまで確認してきたことをふまえて、現在の自分が抱く将来のイメージ・希望を自覚し、実現に向けてどのような行動をしていくかを考えるのを目的とし、ワーク「10年後の未来日記」と「アクションプラン」に取り組んだ。

○ワーク「10年後の未来日記」

まず10年後の今日（セミナーの実施日）の生活を具体的に想像し、それを日記形式で記述する。シートには10年後の生活をイメージしやすくするため、現在と10年後の自分と家族の年齢を記入する欄を用意した。この欄を記入することで家族の変動をシミュレーションする。その後、①自分の年齢 ②一緒に住んでいる人 ③誰の収入で暮らしているかの3点には必ず触れたうえで、自由に日記を書く。記述後は日記をグループで発表しあい、感想や意見を交換した。

○ワーク「アクションプラン」

次は未来日記を実現するまでの10年間のライフプランを記入し、日記の実現を阻む要因のピックアップを行う。記入した結果についてグループ内で自由に語る時間を設けた後、ワークの結果を全体で共有した。最後に、セミナー終了後に取り組む行動計画をそれぞれ作成した。

○まとめ

4回のセミナーをふり振り返り、自分の希望の明確化と尊重、阻害要因とその解決方法を具体的に検討することの重要性を提起した。漫然と将来計画を考えた場合、やらねばならないことばかり浮かんで不安が募る

傾向がある。まず自分が将来に対して抱いている希望の内容を明確化し、実現を阻む要因を具体的に確かむことを行い、それを一つ一つ解決していくことによって、自分の希望の具体化への一歩が踏み出せることを伝えた。

3. 参加者アンケートにみるセミナーの評価

以上の流れでセミナーを行ったが、参加者はどのような受け止め方をしたのか。セミナー最終回の終了時にアンケートを実施し、出席者全員にあたる25名から回答を得た。ここではアンケートの結果からプログラムの効果を検討したい。

3.1. 参加者の属性

参加者の年齢は、20代が3名、30代が18名、40代が4名と30代が最も多い。これまでの職業経験は、全員が「ある」と回答している。経験年数は、5年以下が4名、6年以上が16名だった。このうち6名は11年以上の職業経験がある。一方、地域活動などの経験がある者は4名にとどまった。

参加者の3分の2が保育を利用した。保育利用児27名のうち1歳児が12名、0歳児が9名におよび、乳児を持つ女性の参加が多い。また妊娠中の女性も参加した。

今回のセミナーは平日の午前中に実施したため、現在のライフスタイルは家事・育児に専業している人が多かったようである。だが育児休業中で復帰を控えている人が複数いた。また週に数時間など自分のペースで仕事を続けている人もおり、セミナーの参加者層には多様性があった。

3.2. 参加動機

セミナーに参加した理由として、ほとんどの人が「テーマに関心を持った」と回答している。申し込みの際に記入してもらった「セミナーへの期待」から共通する項目をピックアップしてみると以下になる。（具体的な内容は表2にまとめた）

最も多かったのは、「再就業や復帰に向けての準備」である。就業の時期や具体性には幅があったものの、半数以上の人将来の就業を念頭にセミナーに参加した。同時に「育児との両立」や「長期的展望」をあげ

た人もおり、就業を希望してはいるが具体化に困難を抱えて、セミナーにヒントやきっかけを期待していることがうかがえた。

就業以外の要素では「自分を見つめなおしたい」、いろいろな人の話を聞いて「選択肢を探りたい」がそれぞれ複数あり、生き方のヒントを求めていると考えられる。

これから希望するライフプランに差はあるものの、自分の将来象を明確にしたい、具体的に行動できるきっかけやヒントを得たいというのが参加者に共通するニーズであったと考えられる。これからセミナーの目的は参加者のニーズに合致していたと評価できる。

3.3. セミナーの満足度

それでは実際のプログラム内容は参加者のニーズにこたえられただろうか。アンケートでセミナーに対する満足度をたずねたところ、25名中24名が「満足した」結果となった。このうち17名は「大変良かった」と回答しており、セミナー全体に対する参加者の満足度はたいへん高い。

具体的なプログラム内容・ワークについての評価もおおむね好評であった。なかでも第1回の「ゲストスピーチ」、第3回のロールモデルのトーク、第4回の「未来日記」を役に立ったと答えた人が多かった。

3.4. ワークのよかった点

ワークのよかった点としては、「自分の意見の確認やふり返りがゆっくりできた」、「現在の状況、将来の希望を具体的にあげることができた」など現状分析や自己理解を深めるのに役立ったとする記述が多い。さらに「自分の考えを整理し、具体的にこれからの計画を立てることができた」など、ワークを通して実現に向けた手掛かりを得られたという回答も複数あった。また「参加した方々とたくさん話せてよかった」、「毎回ワークをやって話し合いをしたことで、いろいろな意見や考え方があることを知ったのは良かった」、「個人のワークを、みなでふり返ることにより、改めて気がつくこともあった」など、参加者同士の交流により自分の考えが広がったことを評価する回答も多かった。

表2 セミナーへの参加動機

〔再就業や復帰の準備〕

- ・これから就職するにあたってのポイントを知りたい。
- ・具体的にキャリアアップにつながるように技術的に学びたい。(複数)
- ・社会(仕事)から離れて久しいが、将来的に働きたいと思っているので役立つような知識、考え方など知りたい。(複数)
- ・育児休業中で復帰するの다가子育てにどっぷりなので働く意欲をもり立てたい。

〔仕事と育児の両立〕

- ・現在育児中で復帰するにあたりどのように仕事と育児を両立していくかのヒントを得たい。(複数)
- ・来月末に出産予定。育児と仕事の両立を考えている。今後の参考にしたい。
- ・家庭と仕事のバランスをとることができるか不安。どのような仕事が自分のワーキングスタイルに向いているか、どのように求職活動するか、具体策をあげて教えて欲しい。

〔長期的展望・希望の具体化〕

- ・育児・仕事を両立させたいので長期的に子育て、具体的方策を聞きたい。
- ・長期的ビジョンが固まること(自分なりの)。
- ・色々考えてはいるが、具体的にになっていかないので、セミナーをきっかけに何かをつかみたい。(複数)

〔選択肢を探りたい、他の参加者の生き方考え方を知りたい〕

- ・これから先の選択肢をこのセミナーを通して探りたい。
- ・他の参加者との交流(他の参加者の生き方、考え方を知りたい)。(複数)
- ・今まで気づかなかったような意見をきいたりして、今後の生き方の参考にしたい。

〔専業主婦からの脱却〕

- ・専業主婦である自分が今後どういう風に社会に関わっていったら良いのか。一歩踏み出せずにいる今の突破口になるお話を伺えたらと思います。(複数)

〔自分を見つめなおしたい〕

- ・育児中で仕事を休んでいる。先生や他の参加者の意見など参考にして、自分の評価、育児を見つめなおしたい。

〔その他〕

- ・毎日子育て中。自分と子どもの成長を見守りたい。学習したい。
- ・より楽しく育児をしたい。いずれは仕事がしたい。
- ・子どもを(機関に)預けることになかなか勇気が出ない。地域サポートの具体的な内容を知りたいです。(いつも親に託している)
- ・グループ活動とはどんなものか知りたい。

表3 プログラムに対する評価 (回答者数25、複数回答)

回数	プログラム（「役に立った」と回答した人数）
第1回	ゲストスピーチ（20）／ワーク「キャリアの木」（12）
第2回	ワーク「わたしの支援者」（10）／からだほぐしの運動（11）／ 地域の子育て支援情報の提供（8）
第3回	ロールモデルトーク（21）
第4回	ワーク「10年後の未来日記」（20）／ワーク「アクションプラン」（18）
その他	各回の〈ふり返りシート〉（15）

3.5. セミナーをとおして学んだこと

セミナーで得たこととしては、自信をもって積極的に人生をつくっていくことの肯定と意欲を得たことが多くあげられた。「子どもができたならやりたいことも後回しにと思っていたが、そんなことは思わず、やりたいことはやっていくようにしたい」、「それぞれの生き方があり、答えはない。自分で考え、自分の納得する生き方をしたい」、「働くことに対して負い目を感じずに、自分の人生の主人公になってよいと感じた」など母親役割に縛られず、積極的に自分の人生を作ろうという意欲が見られる。さらに「自分の目標を立てる。夫と話しあう。仲間をつくる。まずは一生懸命自信を持って仕事する」などそこから一歩進んで具体的な行動を意識化した参加者も多数いた。

3.6. セミナーに対する違和感や改良すべき点

これまで見てきたようにセミナーについての参加者の評価は高かったが、いくつか改良点も指摘された。

第一は、「専業主婦が意外と少なかった。違和感というほどではないが『専業主婦』からの社会復帰を目指している人ともう少し話してみたかった」、「受講者の中には専業主婦を続ける人も多いと思うが、そういう人には少し外で働くことを焦らせる内容かなと思った」など講座内容がやや就業に偏っているように感じたという声である。セミナーの趣旨で記述したように、今回のセミナーでは多様な選択肢を示すことによって参加者が自分に合ったキャリア展望を見出せるようプログラムを設定した。ロールモデルの選定でも、専業主婦としてはじめて地域活動からキャリアを築いた女性を選ぶなど考慮したつもりであったが、参加者のキャリアプランとギャップがあったのかもしれない。

第二は、「ワークの時間の区切りがもう少し明確だと良かった」、「ワークの発表時間がもっと多ければよかった」など、時間の問題である。さらに「育児中の

人が多く、具体的というよりアイデア並べや理想（空想）での話し合いでは、すでに経験して苦しんでいることが多かったので少し残念だった」という声もあった。ワークの設計にあたっては、参加者が自身の現状と希望を他者と共有しながら具体化することをめざし、個人での記入作業とグループでの話し合いを組み合わせた構成を考えた。しかし実際には時間が足りなくなり話し合いの時間を短縮することが多かった。もっとゆったりと時間を確保する必要があるということだろう。

おわりに——セミナーの成果と今後の課題

今回のセミナーは、育児期の女性たちが同じ子育て中の女性たちと学びあう中で自信を持ち、自分自身のライフプランを見直すことの支援を目的として実施した。アンケートの結果から、この目的はほぼ達成できたのではないかと考えられる。

方法としては、「書く」こと・「話す」ことを重視したワークが、女性が自身の状況を確認し将来展望を具体化する方法として有効であることが見出された⁵⁾。参加者の感想にも「ぼんやり描いていた10年後をはっきり意識して書いてみたことで、まず何をしなければならなかった（中略）自分の意見を発表するのは恥ずかしかったが、聞いてもらえたことがうれしかった。夫ともっと突き詰めて話し合おう」など、書く・話すことが希望や課題の具体化につながったことが見られる。今後もさらにキャリア支援プログラムの方法として書く・話すを組み合わせたワークを活用していくこととしたい。

今後の課題として、3点をあげたい。第一はジェンダーの学習課題化である。セミナーをとおして参加者のなかに強いジェンダー規範があることがうかがえた。参加者は就労や社会活動を希望しているが、一方

で家事や育児は女性である自分の責任という意識が強い。そのためキャリア形成においても家族に負担をかけないことが前提条件になっている場合が少なくない。女性が主体的に人生をつくっていくために、こうした意識を再検討する機会をキャリアセミナーの中に設ける必要がある。

第二は、子育てに関するテーマのプログラム化である。今回のセミナーでは子育てに関する情報提供はしたが、子どもの成長や育児をテーマとする回は設けなかった。しかしロールモデルに対する質問では、日々の育児や子どもとの接し方など、育児に関する質問が多く寄せられ、育児期の女性にとって働きながら子どもを育てる方法や見通しを具体的に持つことの必要性を強く感じた。今後の課題として検討していきたい。

第三は、参加者同士のネットワークづくりの支援である。セミナーが終了してもキャリア形成の試みは続いていく。その際に参加者同士の支え合いは大きな力になると思われる。壁にぶつかったときや自分に自信がなくなったとき、素直に状況と気持ちを聞いてもらえる仲間がいることはそれを乗り越える助けになる。また参加者同士の情報交換が有効に働くことも多い。こうした点から、セミナーをととしてネットワークができることは重要である。今回のセミナーではネットワークづくりの呼びかけはしたものの、それ以上の支援はしなかった。参加者の自主性の発揮を期待したからであるが、今後は、フォローアップ講座の開催なども含めより効果的な支援策を検討したい。

学習支援者としては、参加者それぞれがキャリア形成のヒントやきっかけを見出してくれたことをセミナーの複数の場面で感じる事ができた。参加者の感想の中でもっとも印象的だったのは「働くママはかっこいいとか、専業主婦の方がすばらしいとか、そういう視点ではなく『自分が幸せなのはどんな状態か』を考えてこれからのライフプランを考えることが大切」という文章である。与えられた選択肢から選ぶのではなく、自分の判断を持って人生を歩んでいきたい。そのうえで、違った生き方を選んでいる人ともつながっていきたい。出産・育児期の女性に向けたキャリア支援セミナーが、女性がおとなとして成長しあう場となることをめざしたいと考えている。

〈注〉

1) 財団法人女性学習財団は、男女共同参画社会の実

現を目指した女性の生涯学習と次世代育成支援を目的とした社会教育団体で、情報誌『月刊 We learn』および学習資料の発行、学習機会の提供、プログラム開発等を実施している。2006年から出産・育児期の女性を対象とするキャリア形成セミナーを港区立子ども家庭支援センターと協働で実施し、本稿で扱うのは2年目の共催事業である。ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jawe2>

- 2) 「自分のことを模索している。現在は育休中だがこのまま子育てを続けていいのか、そんな悩みを持つ他の人の話も聞きたい」(30代)、「今まで気がつかなかったような意見を聞いたりして、今後の生き方の参考にしたい」(30代) など。
- 3) 定員の倍以上の申し込みがあったため抽選の結果決定した。
- 4) 「キャリアの木」はキャリアカウンセラーの森山貴代さん(i&iコミュニケーション・ラボ)が考案・作成したシートである。森山さんの了承を得て使用させていただいた。「わたしの支援者」「10年後の未来日記」「アクションプラン」は筆者が考案・作成した。
- 5) その契機については拙稿を参照されたい。新井浩子・福井庸子 2007「将来展望を具体化するキャリア形成支援の試み——ワークショップ『10年後の“わたし”を考える』を事例として」『フィロソフィア』第95号、112-99, 早稲田大学哲学会

(あらい・ひろこ 早稲田大学非常勤講師)

資料 ワークシート

① 「キャリアの木」

2007.10.4 第1回 配付
ワークシート

キ ャ リ ア の 木 (生 活 欄)

関心を持っていた、持っている	やってきた、身についてきた																																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;">1</td><td style="width: 5%;">2</td><td style="width: 5%;">3</td><td style="width: 5%;">4</td><td style="width: 5%;">5</td><td style="width: 5%;">6</td><td style="width: 5%;">7</td><td style="width: 5%;">8</td><td style="width: 5%;">9</td><td style="width: 5%;">10</td><td style="width: 5%;">11</td><td style="width: 5%;">12</td><td style="width: 5%;">13</td><td style="width: 5%;">14</td><td style="width: 5%;">15</td><td style="width: 5%;">16</td><td style="width: 5%;">17</td><td style="width: 5%;">18</td><td style="width: 5%;">19</td><td style="width: 5%;">20</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;">1</td><td style="width: 5%;">2</td><td style="width: 5%;">3</td><td style="width: 5%;">4</td><td style="width: 5%;">5</td><td style="width: 5%;">6</td><td style="width: 5%;">7</td><td style="width: 5%;">8</td><td style="width: 5%;">9</td><td style="width: 5%;">10</td><td style="width: 5%;">11</td><td style="width: 5%;">12</td><td style="width: 5%;">13</td><td style="width: 5%;">14</td><td style="width: 5%;">15</td><td style="width: 5%;">16</td><td style="width: 5%;">17</td><td style="width: 5%;">18</td><td style="width: 5%;">19</td><td style="width: 5%;">20</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																						
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																						

③ 「10年後の未来日記」

キャリアセミナー2007.11.23 第4回配布

10年後の未来日記

現在 _____

0	10	20	30	40	50	60	70	80	～
---	----	----	----	----	----	----	----	----	---

10年後 _____

お名前 ()

② 「わたしの支援者」

ワークシート＜わたしの支援者＞

あなたはどのような支援者をもっているでしょうか。誰から、どのような支援をうけているか考えてみてください。あなたがたくさんの支援を受けていると思う人は内側の円に、そうでない人は外側の円に記入してください。全く援助が望めない人は、円外に記入してください。

④ 「アクションプラン」

キャリアセミナー2007.11.23 第4回配布

ワーク「アクションプラン」－10年間のライフプラン

年	ライフプラン	実現に向けた短期目標
2007年 11月	キャリアセミナー受講	いつまでに、何を、どうする
2008年		
2009年		
2010年		
2011年		
2012年		
2013年		
2014年		
2015年		
2016年		
2017年		

未来日記の阻害要因

お名前 ()